

## 最下部カンブリア系SSF生層序の改訂

## Rivision of the lowermost Cambrian SSF stratigraphy

\*河野 聖那<sup>1</sup>、磯崎 行雄<sup>1</sup>、佐藤 友彦<sup>2</sup>、張 興亮<sup>3</sup>、劉 偉<sup>3</sup>

\*KONO SENA<sup>1</sup>, Yukio Isozaki<sup>1</sup>, Tomohiko Sato<sup>2</sup>, Xingliang Zhang<sup>3</sup>, Wei Liu<sup>3</sup>

1. 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系、2. 東京工業大学地球生命研究所、3. 中国西北大学  
1. The University of Tokyo School of Arts & Sciences, 2. Earth-Life Science Institute, Tokyo Institute of Technology, 3. Northwest university, China

カンブリア紀最初期の動物多様化はsmall shelly fossils (SSF)群集の出現として記録されている。これまで最も詳しい研究が行われてきた南中国、雲南省東部澄江地域の小濫田および洪家冲セクションの露頭試料および掘削コア試料を用いて、最下部カンブリア系の詳細な岩相およびSSF生層序を検討した。小濫田セクションにおける最下部カンブリア系の中で、SSFを含有するリン酸塩岩（中誼村部層:層厚約30 m）について詳細な検討を行った結果、以下の事が明らかになった。1)中誼村部層は岩相の特徴から6つのユニットに細分される。黒色泥岩層を伴うユニット3は中誼村部層の中で明瞭な鍵層となる。2) 中誼村部層および直上の大海部層から採取した83層準の試料中、26層準からSSFが得られ、多様なSSF化石の産出範囲の詳細が明らかになった。下位より順に(i) *Acanthocasis orthocanthus*, *Spirellus* sp., *Protohertzina unguliformis*, *Protohertzina anabarica* を主に産する区間（中誼村部層ユニット1の最上部およびユニット2の下部）。(ii) *Ocruranus finial*, *Purella* sp., *Yunnanopleura biformis*を含み（ユニット2の上部）、cap状化石の初出によって特徴付けられる区間。(iii) *Helcionellasp.*, *Oelandiella korobkovi*からなる区間（ユニット3）。(iv) *Obtusoconus* sp., *Conopoconis* sp., *Erongia acculatus*を含む区間（ユニット6の下部）。そして(v) *Igorella* sp., *Bemella simplex*, *Paragloborilus subglobosus*からなる区間（ユニット6の上部）である。3) 洪家冲セクションでは(i)と(ii)の間に *Halkieriasp.*, *Pteromus* sp., *Sinosachites delicatus*などからなる特異な群集を産する区間がさらに識別可能である。

以上のことから、小濫田および洪家冲セクションでは、以下の6つの化石帯が設定できる。すなわち、*Acanthocasis orthocanthus*-*Protohertzina anabarica* Zone, *Halkieria*-*Pteromus* Zone, *Ocruranus finial*-*Yunnanopleura biformis* Zone, *Paracarinachites sinensis*-*Oelandiella korobkovi* Zone, *Obtusoconus*-*Conopoconis* Zoneそして *Igorella*-*Bemella simplex* Zoneである。中誼村部層のSSFについてはこれまで2つの群集帯が区分された（Steiner et al., 2007）のみであったが、本研究によって6つの化石帯が識別可能であることが明らかとなった。また、中誼村部層中部の鍵層が *Paracarinachites sinensis*-*Oelandiella korobkovi* zoneに限定されることは、広域の年代対比に極めて有効である。

キーワード：カンブリア紀、SSF、雲南省

Keywords: Cambrian, SSF, Yunnan